

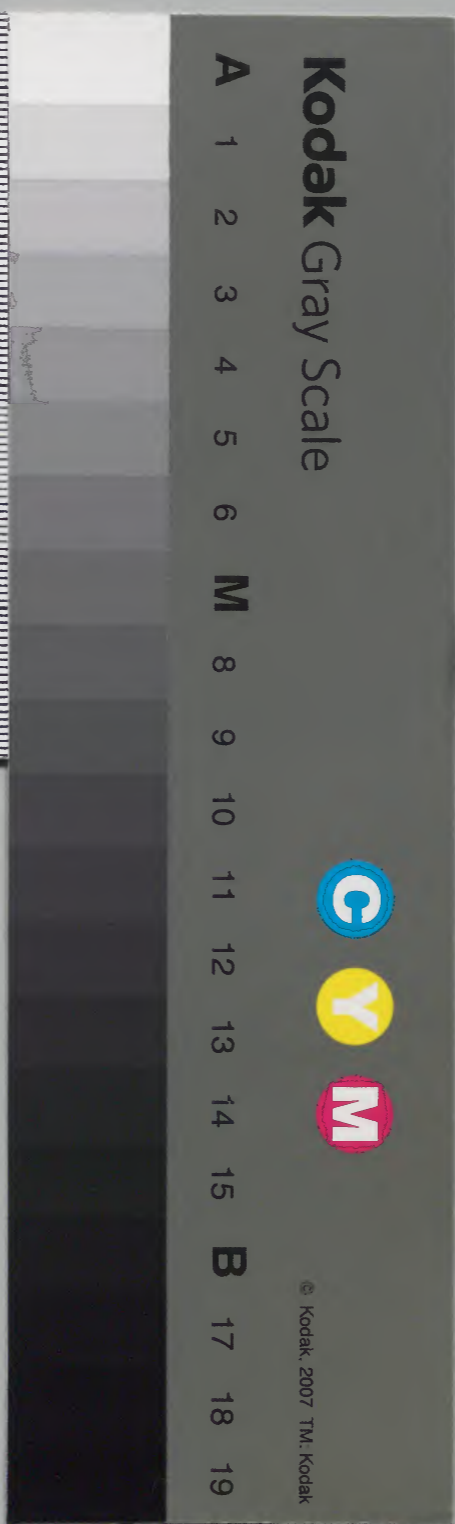
因幡志

三十

和書門	
八六七六	類
九五	函
三五	冊架

内閣文庫	
八六七六	和書
三五	冊架
七五	函架

内閣文庫	
番號	和 8676
冊數	35 (30)
函號	175 104



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

因幡志

古墳

三十二

因幡志

卷之十六



因幡志卷之十六

古墳部
八上郡



因府侍醫安倍惟新恭庵編

蒲冠者範賴朝臣之墓

慈住寺之廢地

武田豊前守高信之古墳

虎石山能引寺經塚之圖

北村室經塔之圖

八東郡

波多野隆平之古墳

木下備中守之墓

山崎左馬允家盛之墓

窟堂境内之圖

智頭郡

佐治四郎之墓

武藏坊辨慶母之墓

木下兼雲之墳墓



蒲冠者源範賴朝臣之墓

五倫高七尺五寸

靈石

郡山

寂勝

寺

衆廿五人

區石垣

二間四方

高

九三尺

右ニ換寫スル墳墓ハ靈石山最勝寺ノ後園山上ノ茶圃ノ
中ニアリ蒲ノ御曹司参河守源範賴朝臣ノ墓ト云傳ハ夕
リ然ルニ五輪ノ臺坐ニ衆二十五人ト彫刻タリ但シ衆字
ノ上ニ今一字有ル様ナレ氏漫滅ニ似テ明ニ見エズ何サ
マ二十五人トアレバ蒲殿ノ墓ト云フハイブカシ又五倫
ノヤウスモ其時代ノ物トモ覺ユガタシ胡亂ト謂ツベシ
サレド當時ノ緣起ニ蒲殿當州漂來ノ時梶原景時討手ニ
來リシカハ欺レ之蒲殿病死ト披露シ當時ニ入テ出家シ教
頼法師ト改名有テ其實ハ建久八年丁巳十一月十日寂シ
給ヒ則靈石山ニ葬ル行年四十五歳トアリ又蒲殿出家セ
ラレシ時従者二十四人各トモニ薙髮ストアレハ蒲殿寂
滅ノ時此等ノ輩殉死ナド遂タルヲ以テ一堆ノ塚ニ口メ
タルニヤ其無トモ年ヲ逐テ病死セルヲ同壙ニ葬シモ知

レヘカラス然レハ二十五人トアルモ柶無キニアラス疑
ハ其ノ主後入衆ノ都合ヲ記セルナラム歟蒲殿御息吉見
次郎範圍ト称スルアリハ上郡ニテ土師郷三百町領知シ
テ門尾村中山ニ在城ノ夏寺縁起ニモ見エタレハ範圍
墓ノ碑ヲ造立有ヘキ事也サレド其程ノ時代ヲ經タル碑
碣トモミエス不審ナリ想フニ巨濃郡高野郷ノ領主吉見
宮内太輔同苗兵部少輔又同弥次郎又兵庫ナリト称スル
アリ以上實名不詳是皆蒲殿正統ニテ吉見次郎範圍ヨリ
当州ニ相統シテ巨濃郡今詔石小田大谷延奥寺村ニ累代
居城号城トカアリシ名家ナレハ後代彼墓誌ヲ建立アリシ
ニ知ルヘカラス又群書類従ト云フ書東武ハナリ康正三
年造内裏段錢役引付ノ記録ニ〇一二貫三百三十五文吉
見弥次郎殿因幡国高草郡ノ保段錢ト云々按ニ康正ハ百三後花

園院ノ年号至今三百年余將軍ハ東山義政公時代ナリ大
方ハ小田谷延貞寺村ノ城主吉見氏教代ノ内ノ造立ニテ
モアルニヤ外カ思ヒヨラスサレハ陰徳太平記三十一石見
国津和野三本松ノ城主吉見大藏太輔源正頼ト云フ又
リ清和天皇后胤参河守源範頼朝臣十五代末葉ニテ又道
武事兼備ヘタル良將也父ハ吉見大藏入道徳友ト云嫡子
ヲ頼信勇一途ト云フ以下又後大平記三十七吉見大藏太
輔正頼ハ参河守源範頼末裔トアレハ蒲殿後孫ハ皆以テ
吉見氏ヲ称スル最モ分明ナリ縁起所謂吉見次郎範国
ノ事跡モ疑フヘキ所ナシ陰徳記ノ吉見正頼ハ蒲殿ヨリ
十五代ノ後孫トアレハ其比諸国ニ吉見氏ヲ称スルハ皆
当国ヨリ分レタル支流トニエタリ

八上郡土師郷百井村
慈住寺之廢迹

大塔礎中ノ
圓形ニ
彫タル
穴ノ徑リ
二尺二寸
大 門 礎 數
ハツ



礎門大
柱ノ圓形徑リ二尺二寸

心礎間四尺六寸

大塔礎ノ穴

此処昔ノ堂屋鋪ナリ裏方
礎數多アリ皆柱着ノ迹アル
九〇〇〇〇〇〇〇礎ノ大サ皆方
六七尺或七八尺ノ盤石也



八上郡土師郷百井村慈住寺之廢地村ヨリ私部川ヲ隔テ
、東ノ山下ニアリ此寺真言派ニテ本寺高野山三昧院昔
ハ赫々タル大伽藍ニテ佛閣僧房甍ヲナラベタリト本尊
兼師如來坐像長六尺 眼士阿彌陀觀音薩ノ外地中ニ掘出セル佛像
數多草庵ニ安置ス又廣目天下号スル木像手足カケ損シ
タル本地ノ佛像アリ昔大門ノ礎等依然トシテ殘レリ天
正中秀吉公未伐ノ片其比ノ住僧御味方トシテ國中ノ繁
内ヲ通シケル間永ク國敵ノ名ヲ蒙リサシモノ古刹終ニ
頽顛シテ今ニ至テ再興ナラスト云フ不思議ノ因縁ナリ
トカヤ



高信鎧掛ノ
檜木圍ニ九二丈

此木ハ堂ノ前右ノ方ニアリ

武田 豊前 守 高信 之 古墳



塔高サ四尺七寸

高信討死ノ時共ニ死タル
家来ノ墓ト云教墳

築地 高サ 壹丈 計

高信位牌



當寺開墓天義院殿從三位參儀良嶽共將大居士

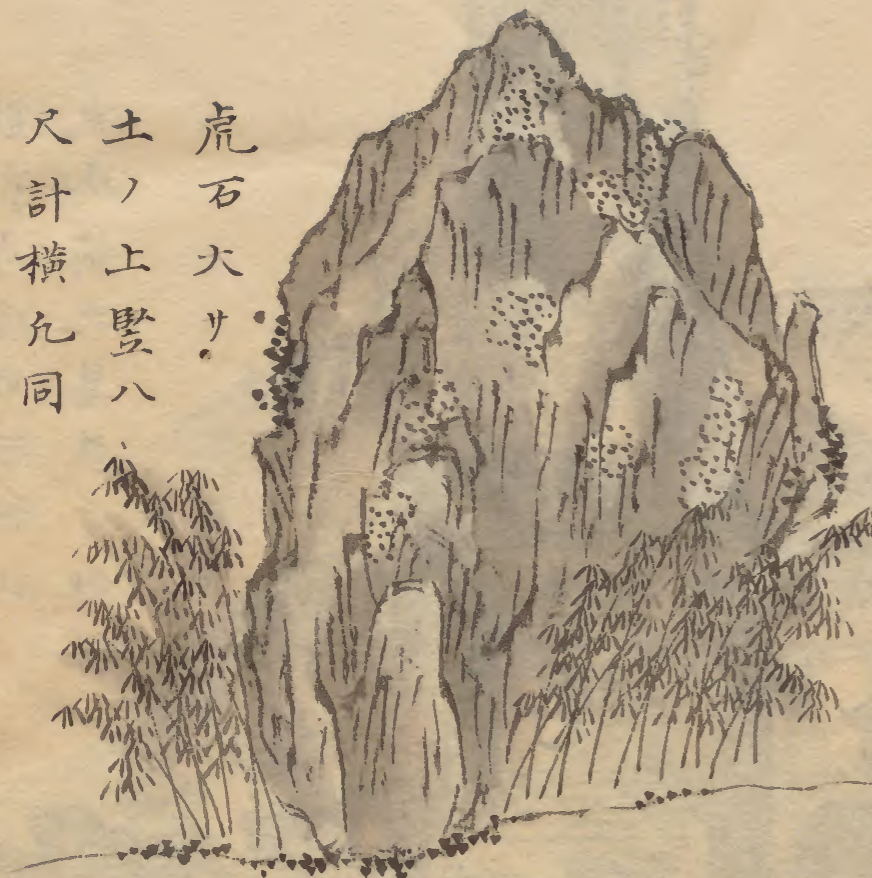
天正六年 戊寅

八月十有七日

右武田豊前守高信初名又ノ墳墓也八上郡散岐村大義寺
ニアリ事ハ古城ノ部詳也

虎石山能引寺虎石之圖

在山門右麓小藪中



虎石大リ
土ノ上豎八
尺計横九同

法華水
虎カ石
ノ下在
三間計井廣サ
九三尺四方

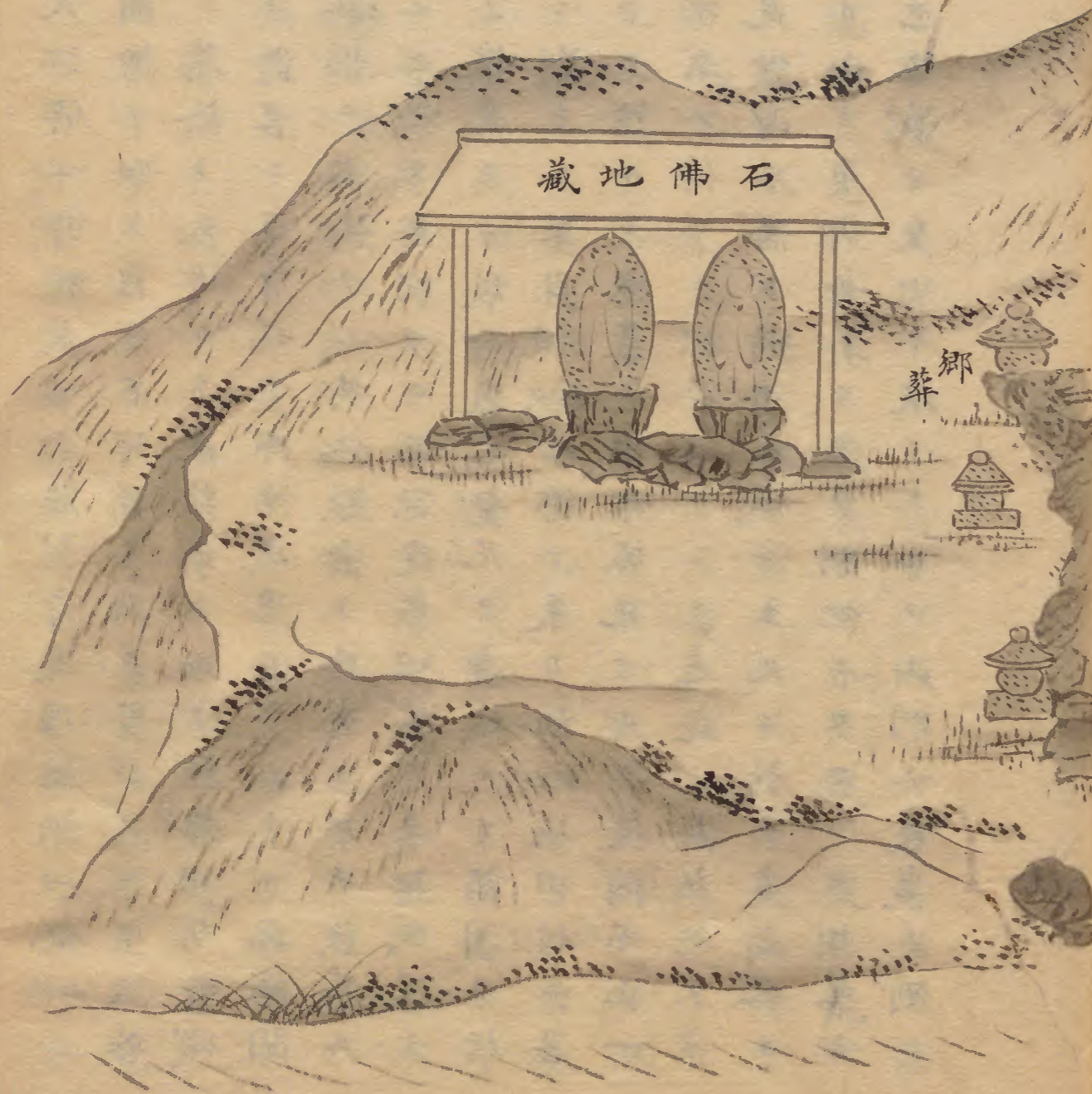


能引寺境内經納山
虎御前之墓並ニ經塚



石佛地藏

郷
葬



右八上郡大江郷下野村虎石山能引寺境内經納山武經山尾山經塔
体相ナリ圖繪ノ如ク自然石碑碣ノ前ニ安シスル宝經塔
ハ虎御前ノ墓誌ト云傳タリ虎御前ト云フハ昔相州大磯
驛ノ倡家ノ逸君ニテ曾我十郎祐成思ヒモノナリ容貌閑
都ニシテ歌倡モ亦侍ナシ其比鎌倉ノ仕夫コレヲ強慕ス
レ氏權貴ニモ從ハ珍宝ヲモ不_レ欲建久四年ノ夏祐成富士
野ニ最期ノ後悲ニ堪ハ道世童尼ノ身トナリ諸国ヲ行
脚シ祐成ニ別テ三年目建久六年此郷ニ乘リ初ハ坂田村ニ忍
ビ居ケルトノ然ルニ戀慕ノ族祐成死セルノ後猶不止一
白ニコレヲ求メ得ント欲シヌヲシテ遠近ニ其在処ヲ索
シム於爰虎女身ヲ忍ニ術ヲク私ニ土又ニ計テ隻病死ニ
託シ此ヨリ山ノ奥御舟谷ト云フ閑地ニカクレテ朝暮シ
祐成ノ後世イタラシ吊ヒケルガ後チニ今ノ山門ノ麓巖ノ側ニ

草庵ヲ結テ安居シ其辺小水ノ清キヲ汲テ一石一字ノ法
華經ヲ書寫シテ遂ニ經塚ヲ供養セリソヨリニカタ余降彼ノ巖ハ虎ガ
石ト云ヒ又彼小水井ヲ法華水ト呼ナラハセリト云傳タ
リトナン物虎女ハ元久二年垂タル髮ヲ落シ同年十七日
寂ス時ニ生年三十三即チ死骸ヲ火葬シ經塚ノ側ニ安措
テ松ヲ植テ誌トス其後虎女ガ伯父ナル忍山ト云フ僧叡
山ヨリ尋子乘リ虎女ガ追善ヲ營ヒ負感禪尼ト法名シ即
癸願シテ一寺ヲ建立禪尼ガ護リ本尊地藏ヲ安置シテ本
尊トス木佛坐像御長六寸五歩時ニ負应元年八月十八
日虎石山能引寺ト号スル是ナリ山号即チ禪尼ガ俗名ト
巖下庵室ノ体相ニ據テナリ能引寺ハ本尊地藏是レ即チ
地藏經ノ因テ寺号ヲ儲タリト当寺開基貞应元年ヨリ寛
正年中迄二百三十年餘天台宗ナリシカ其比ノ乱逆ニ任

侶悉ク退散シテ姑ク無住タリシカ应仁年中京都建仁寺
ノ天徳ト云フ僧来住シケレハソレヨリ禅ノ宗風ト改マ
リケル物以前ハ虎女旅行ノ状豹ヲ刺ル四寸計ノ木像モ
アリシト、カヤ其体蚕尼トミエテ髪ヲ肩尖ニテ切りマハ
シ後ニ頭陀袋ヲカケ脚ニ草鞋ヲハカセ杖ヲツキケルト
ナリ並虎女遺物トテ破レタル琵琶一面又祐成所持ト云
ニ傳ヘシ太刀ノ身一腰無名自鉏本至同弓一張当寺什物
トシテ傳ヘ来タリ然ルニ慶安年ノ初メ比丹波国金カ掬
ト云フ処ヨリ耕岩ト云ケル僧来テ二年住居シ同三年ニ
彼什物ヲ盗ミ去リケル其時虎女カ木像並ニ琵琶祐成カ
寺ト三品紛失セリ但シ琵琶ハ宝曆十五年故アリテ当寺
ニ返ルト能引寺ノ記録ニ見エタリサレハ此琵琶再々寺
寺ニ納庫ノ因縁コソ不思議ナレ宝曆ノ比カトヨ鳥取若

櫻所ノ商家建新古工門屋号天津ト云ケル者古物店ニ琵琶
胴計ヲ買ヒ求ケルカ床上ノ額ニ物好シテ彼ノ胴ノ裏
面トナシ草書ノ栴ノ字ヲ如斯ノ轉書シ即チ彫刻シテ文
字ハ紺青ヲ以テ彩リ床ノ上ニ懸テ數年賞觀セリ然ルニ
或ル時額ノ内裏ヲ見ケレハ因州八上郡大江住以上能引
寺長栄藏一行于時天正四年二月吉日一行ト書記セリ讀
之初テ驚即虎石山ニ送り返シケルナリ依之今什物トス
ル琵琶ノ胴裏板ニ彫刻タル文字ハ額ニ造リシマ、ナレ
ハ也按ニ天正八百七代正新町院ノ年号信長公將軍ノ時代
ニテ其許リ久シキ年号ニアラス今寛政ニ至テ二百年ノ
余ハ有ルニアラス虎女カ故事ハ今已ニ六百年餘ナレハ
天正八年曆大ニ後レタリ虎女カ遺物トハ心滯カタシイ
ガカシ昔ハ何ノ書記モ無リシヲ天正年中ノ住持長栄僧

タ、其時ニ当ル年号ヲ書記シ置ルモ知ベカラス牧又前
ニ所謂虎女ガ死骸ヲ火葬シ経塚ノ側ニ安措テ松ヲ植テ
誌トストアル其処ハ自然石ノ前ノ宝塔ニ向ヘハ右眼一
間計リ山道ノ傍其迹アリ往來大木トナリシカ近世享保
十四年己酉七月十四日大風ニ折テ今ハ亡シト当寺ノ記
録ニ見エタリ又土又口碑ニ其大風折ケル時根返シテ經
石自ラ教多発キ出シトナシ云リ牧虎女当州ニ身マカリ
シ事何ノ書ニモ其沙汰ヲ不聞曾我物語ヲ考ルニ虎女ハ
箱根山ニテ尼ト爲テ成カ弟五郎時宗カ思ヒモノ手越少
将武云假猛ヲ尋達ケル時少将ハ虎女ガ尼トナリシヲミ
テ其ヨリ京ニ上リ法然聖人ノ示教ヲ受テ出家シ虎女打
ケツレ諸国修行ニ出ケルカ虎女ハ其後古郷大磯ニ皈テ
高麗寺ノ山奥ニ芝ノ庵ヲ結テ取籠リ祐成菩提ヲ吊ヒク

ル時少将モ尋來リ其処ニ同居シテ諸氏ニ念佛修行怠リ
無リシカ行功ツモリテ七旬ニ齡タケ五月ノ末カタ上病
症ナクシテ西尼肩ヲ双ベ西ニ向ヒ念佛百遍トナヘ端座
合掌シテ眠ルガコトク往生ノ素懐ヲ遂ケル其時花フリ
異香薫シ音樂ノ聲雲ニ聞ユ聖主來迎シ給ヒケルトアレ
ハ當國能引寺ノ説ハ鹵菴ト謂ツヘキニヤ爾ハアレト往
夏ハ許知ルヘカラス書ニ無之トテ漫リニ疑フモ亦鹵菴
ナリ虎女ハ箱根山ニテ尼トナリ信州善光寺ニオモムキ
又少将ト京ニホリ法然聖人教ニ因テ諸國修行ニ出ケ
ルトナレハ何國ニ行脚スマシキニアラス因幡ニ杖ヲ引
シハ其時ノ事ナルヘシ其無テ跡形モナキヲ何ノ益アリ
テ寺ヲ建テ或ハ經塚迄供養スベキ謂レナシ曾我物語所
謂大磯高麗寺ノ山奥ニ終テ遂シト云フ説虎女カ古郷ナ

レハ其モ有ルヘキ更勿論ナレド在言綺語ノ書サマナカ
 ラ信用スルニ不足ト云シ歎畢竟ハ何ノ書ニモ見エズ思
 ヒ寄ガハル邊地ニ禪尼ガ伯父忍山僧開基セリト云フ能引
 寺コソ虎女カ終焉ノ地ニ疑ヒ無キモノ歎箱根山別當寺
 金剛玉院福寺東ノ説ニ祐成死シテ三七ノ忌日ニ當テ虎女
 箱根山ニ登リ和字ノ風誦文ヲ捧祐成最期ニ所送ノ駿馬
 ヲ以テ布施トシ此日出家シテ信州善光寺ニ赴ク時ニ十
 九歳トアレハ祐成ニ別レテ三年自當國大江谷ニ来リシ
 ハ二十一年トイヘバ年齢モ能ク合ヘリ而シテ十一ケ年住
 居シテ寂ス時ニ元久二年享年三十一ト大江郷土俗ノ傳
 フル所分明也是モ亦能ク合ハリ曾我物語ノ齡七旬ハ箇
 莽云フニ不足猶別卷佛閣之部ニ記ス

八上郡曳田郷

北村

宝經塔之圖

石壇方三間

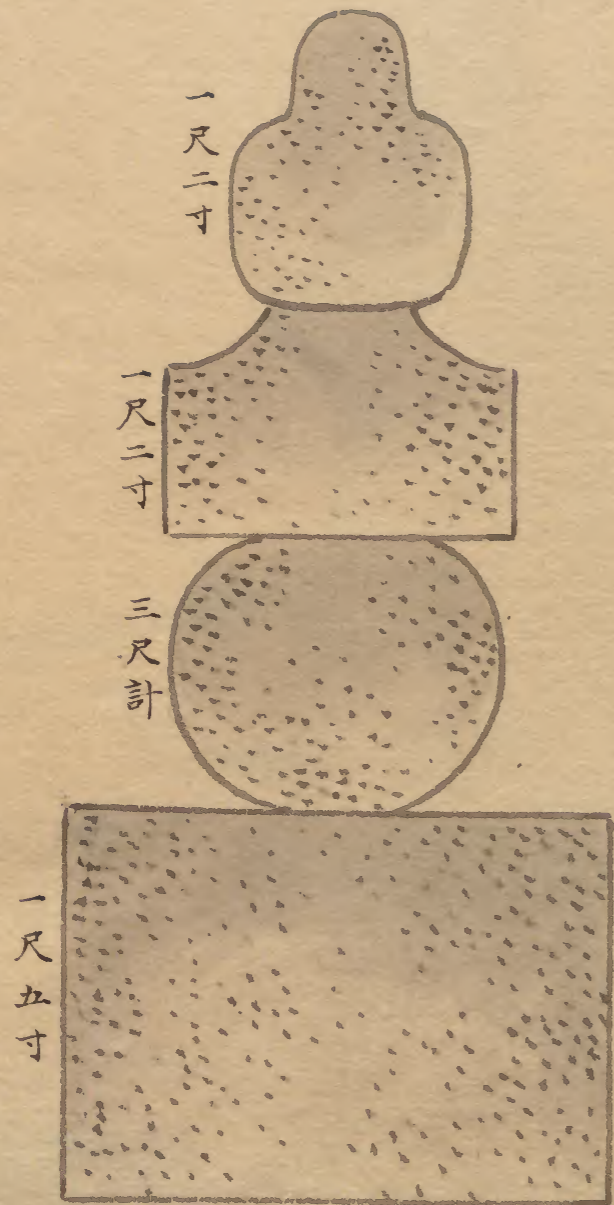
高サ五尺計



右圖繪スル宝經印塔ハ村ノ下モ氏神大宮大明神ノ森ノ
 下手ノ田ノ中ニアリ土俗小畑ノ塚ヨリ八町ノ誌ト云リ
 是ヨリ奥八町同大塚有リ其地ヲ田中ト云フ其レヨリ高
 山権現ノ社ヲテ八町トイヘリ委事ハ未考



波多野民部太輔之墓



惣高リ七尺計リ

波多野氏部太輔隆平ノ墳墓ハ八東郡下ニ日下部村高平
城ノ麓ニアリ波多野ハ永祿二年四月四日北ノ山ノ城主
丹比孫之丞謀計ニ因テ没落スト云々土俗口碑ニ新八幡
ト云ヒ傳ヘタリ委事ハ郡郷古城ノ西部ニ詳ナリ



木下倫中守之墓

在八東郡若櫻驛
西方寺本堂南庭上



木ノ下氏
被宮十九人
之墓五倫ノ
塔十九基如圖繪

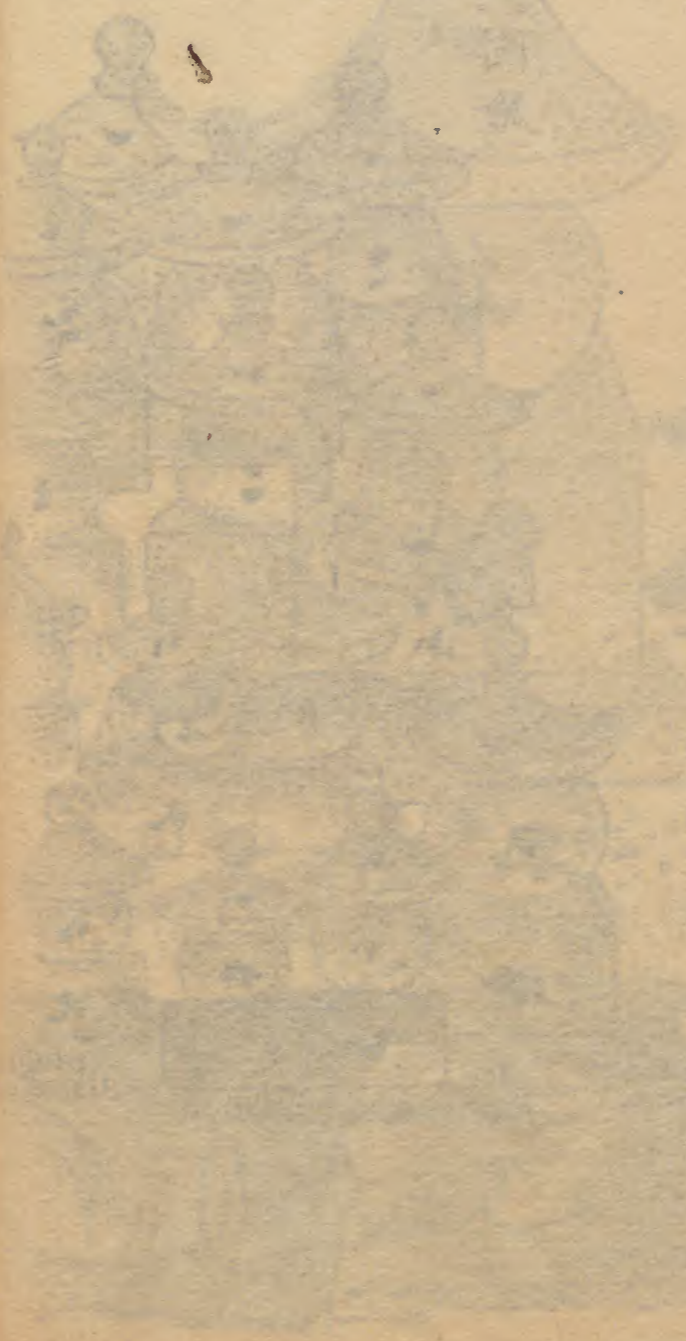


八景...
...
...

...



...



...

八東郡若櫻驛萬祥山龍徳寺
安境内

山崎左馬允家盛之墓





程二曰
從五位下山崎左馬允家盛慶長十九甲寅年八月八日平上以

行一
家盛之男前主馬家長

男主馬佑教家謹造
一以行上

八東郡若櫻郷
窟堂境内之図

窟堂村

北

落
折村
行道

西

南

東

窟堂道並吉川道



窟高廿八間
横四間
深廿十間
堂二間半四面



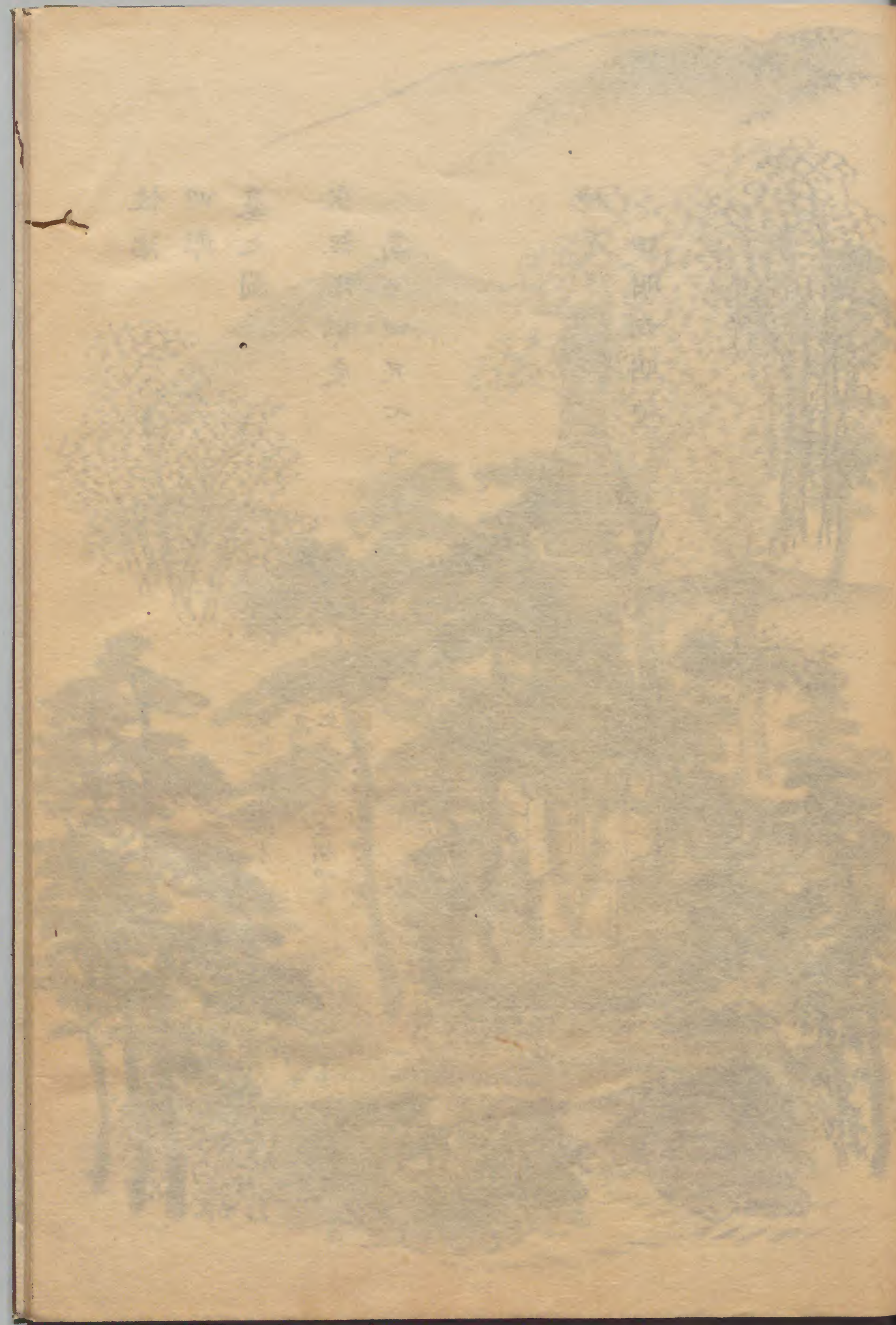
所謂
平經盛一族
之墓也

經盛田

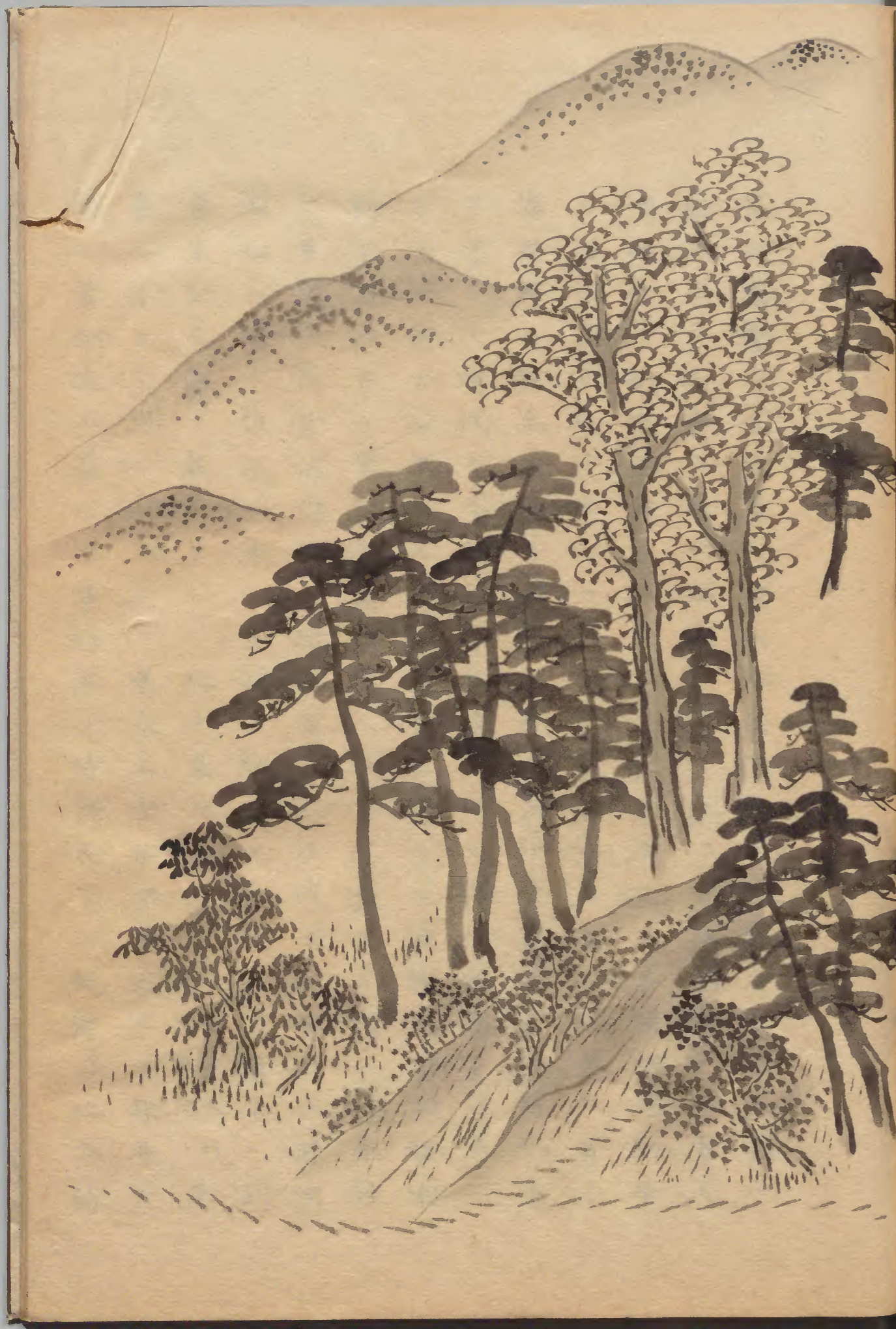


右窟堂ハ妙見山神光寺ト号ス大同元年ノ開基飛驒ノ木
工建ルト云リ窟ノ高サ八間横四間深サ十間岩屋ノ中央
ニ穴アリ小畑ノ岩屋ニ通リテアルト云傳フ堂ハ二間半
四方也本尊不動明王長二尺火畑三尺餘坐像ナリ空海三
十三歳ノ作ト云因幡ノ黒皮不動是ナリ江戸ノ目黒目赤
コレヲ日本ノ三不動ト云フトイヘリ會式ハ正五九月廿
八日ナリ昔ハ七堂伽藍ノ大地有テ四面ニ大門アリ東ハ
前ノ橋ノ下モニアリ西ハ山手南ハホイロト云所ニ在リ
是ヲ不^レ開ノ門ト云北ハ岩屋ノハヅレニアリ寺領百五十
石十三ヶ村ノ鈿取三百八十ノ滅罪^レ地^ニハ三ヶ村^ハ中^ハ原^ハ村^ハ安^ハ原^ハ河
内^ニモトツク^ク殘^リ六ヶ村^ハ若^ク櫻^ハ春^ハ名^ハ信^ハ濃^ニモトツク^ク三
百八十ノ滅罪地ハ今若櫻竜龍寺ニモトツクナリシニ
ナリシニ天正中秀吉公来伐ノ時焼拂ヒ玉ヒシヨリ六年
ノ間無生ノ瘞地タルニ因テ其後寺領ナシト云窟ノ下ニ

焔^ツ鬱^ガタル神祠ニ宇アリ彼ノ炎上ノ時餘畑ニ焦爛ニタル
跡ト云リ縁起ハ其頃ノ法印持去リ作州吉野郡茅野權現
ノ神主ノモトニ行テ再ヒ飯ラス今ニ彼所ニ在トナリ又
小敦盛ト云五輪アリ敦盛兼給ヘル馬ヲ理ニタル塚ト云
リ昔ハ山手ニ在シヲ今ハ岩屋堂ノ下ニ五輪ヲ移スナリ
又經盛ノ墓所ト云傳タルモアリ窟堂ヨリ一町許上ニノ
山スツニ長サ三十三間許リ横八間餘ニ石垣ヲ築キ其ノ
上ニ五輪數多アリ昔ハ嚴重ニアリシヲ今ハ崩シテ一所
ニ集メテアリ中ニ大ナル念入タルカ經盛ノ墓ト云フ五
輪ノ中丸ノ中ニ安ノ字長ノ字ナト彫刻アリシモ此項迄
ハニエシト云リ其辺ノ田ヲ經盛田ト云經盛窟^ノ住マレ
シ所ナルベシト云云



山は雲に隠れ、谷は霧に覆われ、
遠くは山嶺が連なり、近頃は
松竹が立ち並び、水は清く
流れて、田舎の静けさが
感じられる。この風景は、
昔の日本の風情をよく表
している。旅人はここで
心を落ち着かせ、自然の
恵みを感じたい。



佐治
四郎
墓之圖

宝經塔都度
高サ四尺七寸

神号
切明大明神

丘九三間四方
高サ七八間
丘上ノ平地三間四方
周廻石垣高サ四尺計

切明神
禊倉

右ニ圖繪スル墳墓ハ智頭郡佐治郷^{カニ}地^チ村ノ旁ルニ在リ
村ヨリ三町許リ東北田圃ノ中ニ上リ七八間廣サ四方三
十間許リ樹木陰森タル丘アリ丘ノ上凡ソ三間四方切平
シ石垣四尺許ノ築上ケ其上ニ宝經塔ヲ安ニス是ハ昔ニ
佐治郷ノ領主佐治ノ四郎ト云フ武士ノ墓ト云ヒ傳ヘタ
リサレト時代モ不知諱字モ傳ハラズ佐治四郎トバカリ
ニテハ何ナル武士ト考ヘカタシ按ルニ同郷^{佐治}谷^{加勢}木
村ノ百姓古キ筆記數通持傳ヘタリ其記文ヲ考ルニ本姓
ハ尾張氏往昔佐治郷ノ地頭職トシテ代々相傳フノ所領
田畑ノ内ヲ佐治一家ノ支族ニ配分ノ讓狀十一通ナリ別
卷筆記之部ニ載之ケレバ此ニ畧ス年号ハ^{人皇}十^八代^正
嘉二年ヨリ^小百^一代^後ノ應永二十年マテ^後百^五十^餘年ノ
間ノ筆記也正嘉八宗尊將軍ノ時代天下ノ執權ハ北条時

頼入道稱最明應永八室町家義満將軍ノ比マテ數代相續
シケル佐治郷ノ地頭職ナリ其前後如何程ツキケルモ
知ルヘカラス右ニ云フ如ク本姓ハ尾張氏也然ニ佐治氏
ヲ稱スルハ代々所領ノ地名ヲ呼テ氏トスル是中古ノ例
ナレハナルベシ太平記所謂山崎神南合戰ノ時因幡勢ノ
内佐治但馬守ト云フ名出タリ此等モ佐治四郎一族ナル
ヘシ叔又右讓リ狀ノ内俗名法名並ニ講字幼名等マテ數
多出タレ凡佐治四郎ト云名ミ工ズ九十代後建治三年ノ
一通ニ佐治四郎兵衛入道法名所讓リ渡明白也尾張忠
子孫五九十ト認タリ若シコノ四郎兵衛入道ノ夏ナル歟
ナレトモ切明ノ神号ニ據テ想之ニ佐治谷未開時初テノ
領主タルヲ崇祭レル神号ナラムニハ建治以前ノ人ニア
ハ歟ナレハ盛衰記第二ニ曰承安四年七月廿七日

大内少輔すまの石河のそを以乃在申年長方村新居に
事新しむる法々技を予兼差をせり午の刻小宸儀
南殿小出御ありけれし内侍ありし候中畧すまの
長たふをの二人たりんちや美意のむ祿あつた
を祿友にちりん府生たふ各一人たりさぶしるたふ
勝負小志さうり立あふりしをさふりすまのたり
か賀の玉代任人畚井をさやふ因幡の國乃任人をり
長經を召あつたけれり長經をさるはさるをりり
これと内々の口まけ小けれしかいんをさるさるをさる
ととどろきえり以上盛衰記
右盛衰記本文如此所謂因幡國ノ住人尾張ノ長經ト云武
士當時ノ内古キ筆記數多アレ凡尾張氏ノ稱スルハ佐治
郷ノ地頭佐治氏一家ノ外イマダ有之夏ヲ聞ズ前ニモ記

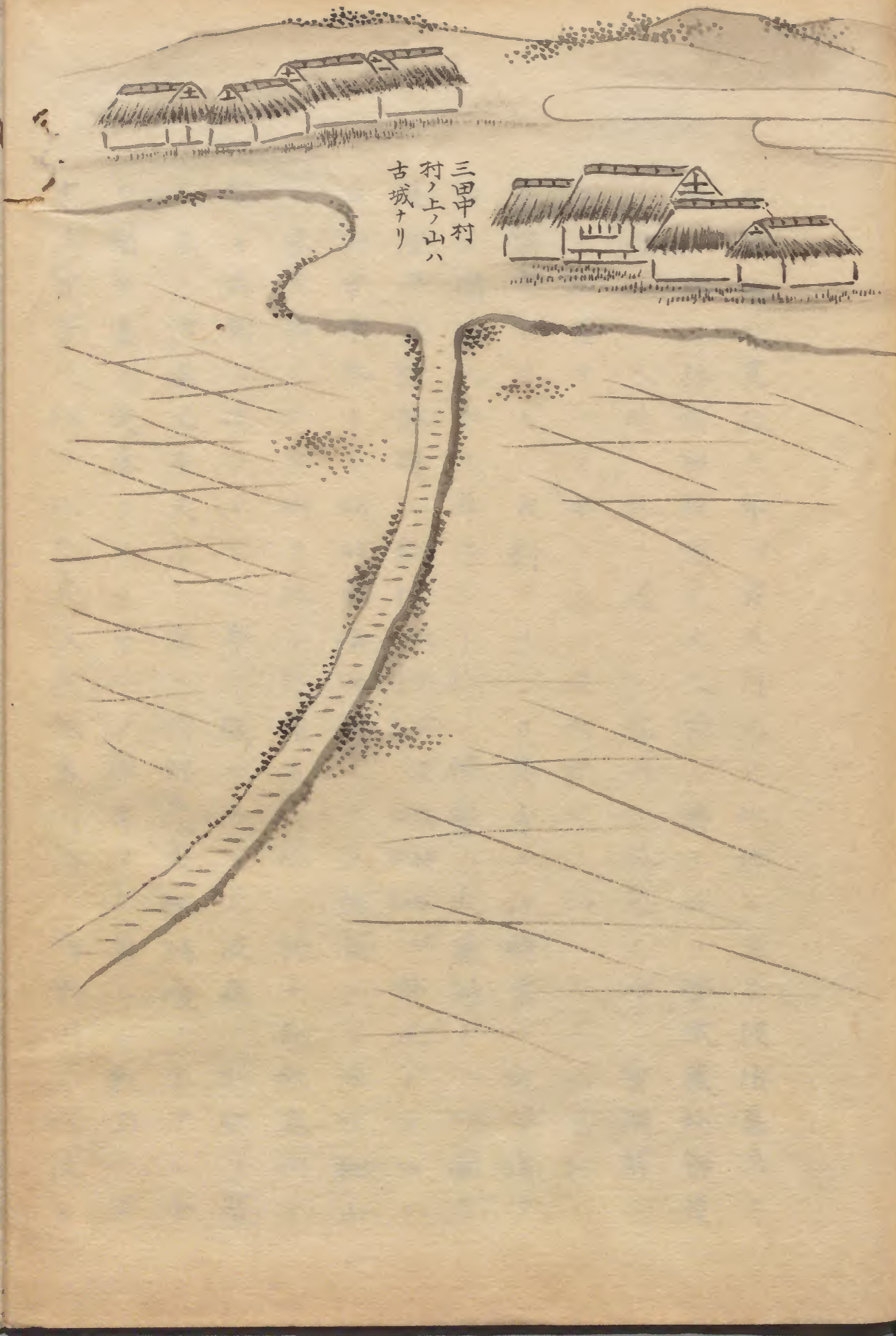
ス讓狀ノ所載姓名ニ佐治孫太郎尾張重繼佐治五郎尾張
忠重 沙彌觀守尾張重經 佐治彦四郎重範 舍弟弥四
郎重行佐治孫四郎尾張重泰左衛門尉尾張重俊等也此外
法名幼名等爰ニ畧ス如此トイヘ氏佐治四郎ト云フ名ニ
エズ又長經ト云フモ無シ按ニ長經大内ニテ相撲召合ア
リシハ承安四年也是ハ十代^五ノ帝 高倉ノ院ノ年号ニ
テ平家ノ全盛尤此時ニアリ又諸國ニ地頭ヲ置レシハ平
家滅亡後文治二年頼朝卿ニ始マレリ然レハ佐治ノ郷ノ
地頭職並ニ讓狀年号モ前ニ記ス如ク時代姑ク後レタレ
バ長經名ノ有ルヘキ謂レナシ又佐治谷ノ里諺ニ佐治
四郎此郷ニ来任ノ初先ツ^カ地^ナ村ヲ開次ニ加勢木村ヲ開
キ其レヨリ次第ニ奥ヘ^ミト^ト開發シテ朽原村ニ至レリ
是佐治四郎所領トスルノ初也故ニ今ニ傳ヘテ^カ地^ナヲ一

ノ小屋ト云ヒ加勢木ヲニノ小屋ト云フ也ト然レハ切リ
明ノ神号尤理ニ合ト謂フヘシ又按ニ盛衰記所謂長經ハ
佐治ノ四郎尾張長經ナラム歛想フニ當時京都 大裡ニ
勤仕シケル折カラ平家ニ隨從ノ郷士也シナルヘシ頼朝
卿天下草創以來佐治ノ郷ノ地頭職トシテ子孫相續シ累
代繁昌シケルトミエタリ今モ佐治谷ノ土俗ニ毎歳正月
元日ノ祝事ニ大福茶ヲ調ルニ必ス挽茶用テ例トスルモ
昔ノ地頭職ノ時ヲ見ナラフ遺風ト聞ユタリ猶郡郷部ニ
記ス

Vertical columns of handwritten Japanese text on the right page, likely a continuation of the text on the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text on the left page, positioned to the left of the illustration.

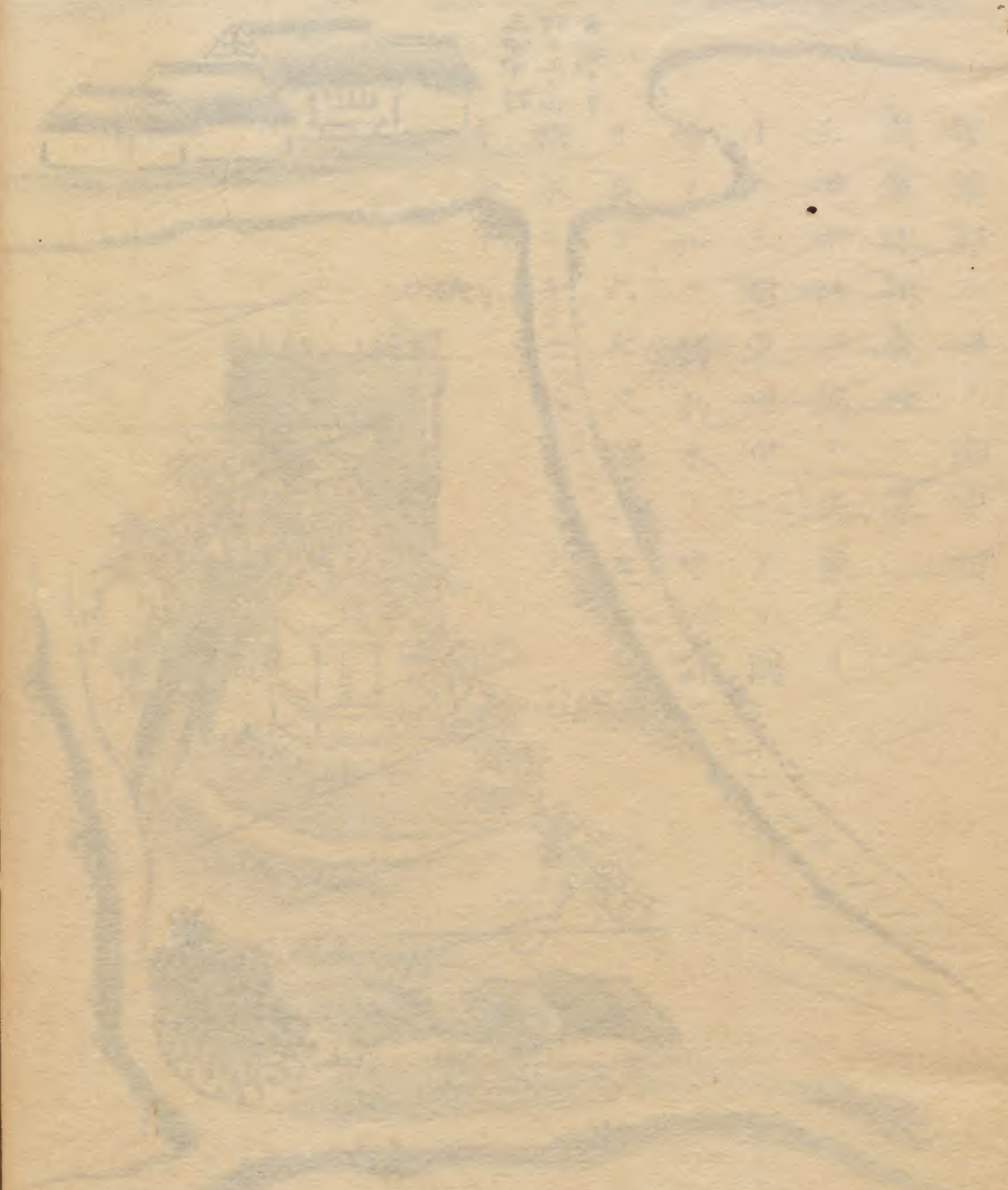


三田中村
村ノ上ノ山ハ
古城ナリ



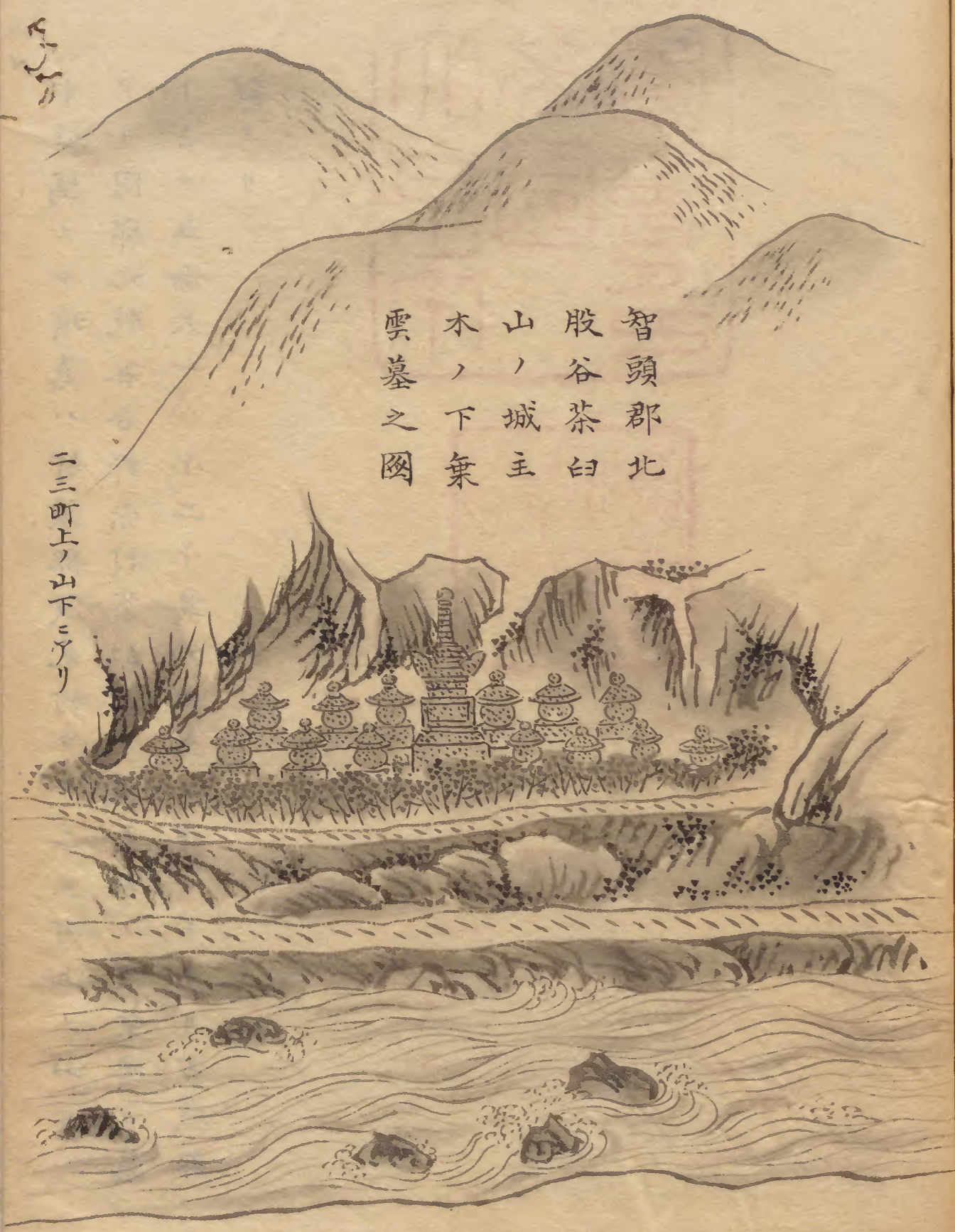
智頭郡三田ノ郷中村
武藏坊辨慶母ノ墓
三田中村下端ノ民家ヨリ
十二三間東田中ニアリ
図繪ノ如ク杉朽木ノ中心計
リ長サ六七尺獨立セル其
根本ニ方一尺計リノ
禿倉アリ

右圖繪ハ寛政六年甲寅五月三日此地ニ至テ彼墳墓及
此ノ地ノ体相粗模寫之土人相ト傳テ云フ昔武藏坊辨慶
ノ母ナル人時ノ乱ヲ遁レテ當州ニ落来リ今ノ智頭驛ノ
辺ニ栖居ケルカ年ヲ遂テ後病死セリ然ルニ其比當村ニ
應福寺ト号スル古刹アリシガ其寺ノ住持兼テ皈依僧夕
ルニ因テ此外ニ葬リシト按ニ辨慶ハ大職冠十一代關白
道隆公氏族熊野ノ住侶紀州田邊鶏關雜現辨正ト云ヘル
ガ一男子也トソ幼時雲播西州ニアリ稍長シテ法ヲ叡山
ニ学ヒ而シテ兵術ヲ以テ惡僧トス此ニ於テ義經奥州ニ
趣キ秀衡ト平氏ヲ亡シ事ヲ議セラレ六波羅ノ形勢ヲ窺
ム夕メ治承元年又京ニ登ル時辨慶義經興廢ノ志アル事
ヲ聞テ進テ從者トナリ第一ノ郎等夕リ而シテ數回ノ軍
忠其智勇人以テ稱之其後義經奥州落ノ時衣川ニ戦没セ



リト其母如何ナル哉ニテ當國ニ死セルヤ何書ニモアリ
 ト云事未聞之サレト乱世ノアリサマ辨慶ノ母ノミナラ
 ス惣シテ源平両氏ノ落人ノ事跡國中如々ニ有テ少ナカ
 ラサレバ此墓ノ説モ當時如何ナル故アリテ此地ニ竄栖
 ケルモ知ルヘカラス昔ヨリ土人相傳タル口碑ナレハ強
 テ疑フベキニモアラス姑ク里諺ニ從フヘキニヤ今此地
 ニテ其名ヲ伊多御前ト云傳ヘリ即チ板ノ字ヲ書ト云フ
 想ニ此地ハ三田ノ郷内ナレバ三田御前ノ訛リニヤ叔又
 辨慶指初ノ刀ト云傳ヘシモノ所持セル百姓アリシ由サ
 レド今其アリシ所シレストゾ

智頭郡北
 股谷茶臼
 山ノ城主
 木ノ下兼
 雲墓之岡



二三町上ノ山下ニアリ

右模写スル墳墓ハ智頭郡浅見村ヨリ二三町上ノ山下ニ
 アリ同郡北股谷合野原村茶白山ノ城主木ノ下衆雲ノ墓
 ト云フ五倫大一ツ小二十其外田土ノ中ニモアリ古城部
 詳ナリ



